

心理・社会福祉学部 心理学科 (2023 年度入学生)

ディプロマ・ポリシー

心理・社会福祉学部心理学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 124 単位以上を修得し、心理・社会福祉学部のディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（心理学）の学位を授与します。

| | | |
|----------|-----|----------------------------------|
| 1. 知識・態度 | 1-1 | 心理学に関する専門的知識を有している |
| | 1-2 | 心理学の方法論を理解している |
| | 1-3 | 人間の心理や行動を科学的に捉えることができる |
| 2. 技能・表現 | 2-1 | 心理学的方法論に基づいて情報を収集・分析することができる |
| | 2-2 | 他者と協働するための基礎的なコミュニケーション能力を有している |
| | 2-3 | 自身の考えを分かりやすくプレゼンテーションできる能力を有している |
| 3. 思考・判断 | 3-1 | 課題を発見しその課題の解決策を立案できる |
| | 3-2 | 他者と協働／協力することができる |
| | 3-3 | 論理的に説明することができる |

カリキュラム・ポリシー

心理・社会福祉学部のカリキュラム・ポリシーのもと、心理学科では、自身の理想を探求・追求し、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献できる人材の養成を目指します。このため、本学科では以下の方針にしたがってカリキュラムを編成し提供します。

心理学の諸領域における専門的知識と方法論を主体的に習得できるよう、「基礎教育科目」では、学びの基礎となる知識を習得するための科目を1年次に編成します。「専門教育科目」では、心理学に関する専門的知識を幅広く習得するための科目を配置し、高学年次には、自ら課題を発見し、問題解決に取り組む科目を設置し、社会で活躍するための実践力を高めます。

「専門教育科目」は、「コア」、「臨床系」、「実用系」および「研究系」に区分し、学生が自ら重点目標を定め、学ぶことができるよう科目を配置します。「コア」は、心理学の基礎的な知識を学ぶ科目により編成します。「コア」で学んだ基礎的な知識を、「臨床系」、「実用系」、「研究系」それぞれの科目へ発展させます。「臨床系」では、臨床現場での実務に関する知識と技能を習得するための科目を配置します。「実用系」では、より実践的な専門知識とスキルを習得させる科目を配置します。「研究系」では、心理学における研究方法やデータ解析に関する知識とスキルを習得させます。そうして得られた学識と能力とを駆使して、最終学年では卒業研究に結実させます。

なお、本学科では、公認心理師の国家試験受験資格として大学で必要な科目を修得することができる教育課程を編成します。また、所定の授業科目を修得することで、認定心理士資格および社会調査士資格の申請が可能になる教育課程を編成します。

アドミッション・ポリシー

心理・社会福祉学部心理学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

人を支援することに高いモチベーションを有し、公認心理師、認定心理士、社会調査士などになることや、これらに必要な資質や能力を高めることによって、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献しようとする者を受け入れます。そのためには、あらゆる場面で知識を活用し思考する力を問われます。したがって、文系・理系という狭い枠にとらわれず、国語、英語、地理歴史、公民のほか、数学、物理、化学、生物といった科目をできる限り幅広く履修し、確かな基礎知識を備えておくことを求めます。